

第61回試験研究成果発表会（作物）発表概要

【動画配信期間】 令和6年2月28日（水）～令和7年1月5日（日）

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

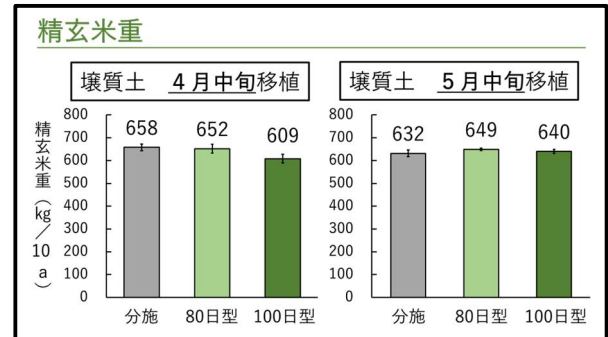
「粒すけ」の大規模化に対応した全量基肥栽培用肥料の施用技術

水稻・畑地園芸研究所 水稻温暖化対策研究室 山本 一浩

千葉県が育成した水稻品種「粒すけ」は、耐倒伏性等に優れることから、4月中・下旬以降に移植することで収穫時期の拡大を図ることができ、作付面積の拡大に対応するための品種として活用が期待されています。作付面積の拡大を図る上で、全量基肥栽培技術による施肥作業の省力化は重要ですが、「粒すけ」の特性を発揮するための本技術は十分に検討されていません。そこで、移植時期、土質ごとに適した全量基肥栽培用肥料を明らかにしたので紹介します。



「粒すけ」(右)は倒れにくい



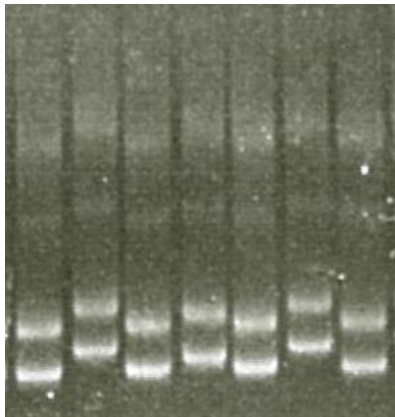
移植時期、全量基肥栽培用肥料ごとの精玄米重の違い

発表2 成果発表

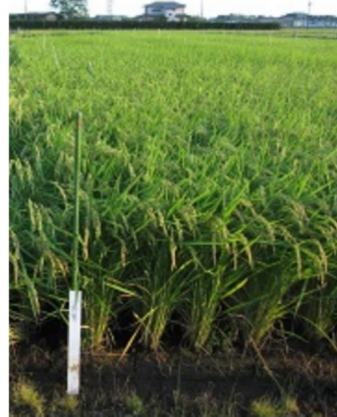
水稻新品種「粒すけ」のDNA鑑定による品種識別技術の開発

生物工学研究室 犬伏 野咲

千葉県では、これまでに水稻品種「ふさおとめ」、「ふさこがね」を育成し、近年では新たに「粒すけ」を育成しました。これらの品種は、収穫期や外観から従来の品種と正確に区別することは困難です。そこで、種苗生産における混種対策や育成者権の侵害防止のため、千葉県で開発した品種と他品種をDNAマーカーを用いて識別する方法を開発したので紹介します。



DNAマーカーを用いた水稻の品種識別結果



水稻新品種「粒すけ」

発表3 成果発表

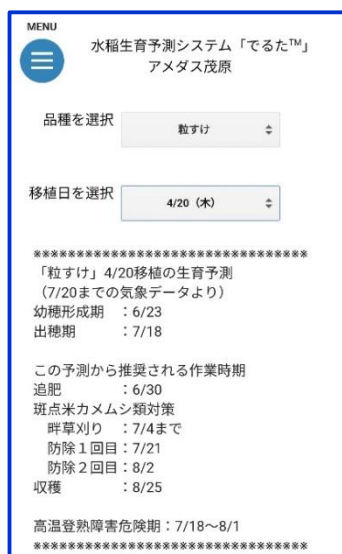
水稻生育予測システム「でるた™」の開発

～スマートフォンを使って、簡単操作で作業適期が分かる！～

最重点プロジェクト研究室 青木 優作

水稻・畑地園芸研究所 水稻温暖化対策研究室 望月 篤

高収量・高品質の米を安定生産するためには、生育ステージに応じた適期での栽培管理作業が重要です。しかし、近年は、気候変動の影響もあり、同日・同地域に移植しても生育ステージは毎年異なっており適期管理が難しくなっています。そこで、当年の気象データを基に、管理適期の目安が手軽に分かるシステムを開発しました。本システムの使い方と運用試験の利用者からの評価を紹介します。



「でるた™」で実際の生育を確認

システムの画面

発表4 成果発表

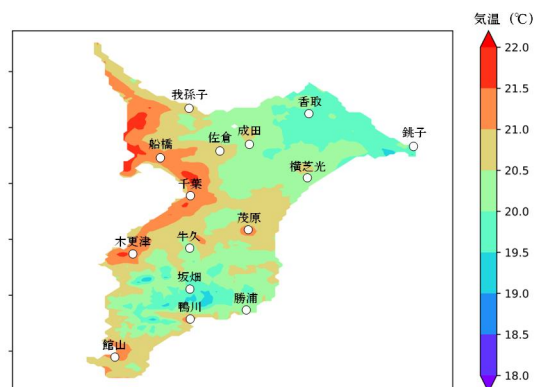
気象データから落花生の開花期を予測する

最重点プロジェクト研究室 小林 孝太郎

近年は気候変動により生産が不安定になっており、落花生の安定生産に向けては播種日ごとの開花期を把握し、その年ごとの気象条件に合わせた栽培管理に取り組むことが重要です。そこで、気象データを活用した落花生の開花期予測モデルを開発し、県内各地で予測精度を検証したので紹介します。



ラッカセイの第1花（開花始め）



5月～7月の平均気温を基に作成した温度分布マップ

発表5 成果発表

輪換畑における大豆奨励品種「里のほほえみ」の栽培法

水稲・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 田中 貴久

大豆「里のほほえみ」は、令和3年に千葉県奨励品種として採用された早生品種で、大粒で莢がはじけにくく、子実の品質が良い特徴を持ちます。従来の早生品種「タチナガハ」に代わる品種であるため、安定して生産できる栽培方法の確立が求められています。本発表では、千葉県における本品種の特性及び好適な播種時期、基肥窒素施用量、栽植密度を明らかにしたので報告します。



中粒「タチナガハ」

大粒「里のほほえみ」



裂莢が多い
「タチナガハ」

裂莢が少ない
「里のほほえみ」